



特集

地域づくりの核となる ランドスケープ

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会
広報委員長 塚原 道夫

都市公園は、環境保全、景観形成、防災、レクリエーション、コミュニティ形成等の機能を果たす都市における重要なインフラです。先人の尽力によって、110,279箇所、約127,321ha、1人当たり10.6㎡の都市公園が整備されています。(平成30年度)

平成29年の都市緑地法等の改正によって、民間活力を活用した都市公園の整備・管理運営が導入されました。指定管理者制度、Park-PFIは、都市公園事業が従来の官による事業から、官と民とによる事業へとシフトをもたらしています。

都市公園事業に関わる主体は、従来のランドスケープ関連事業者に加えて、開発事業、商業、エンターテインメント業、金融等の異業種から参入が図られています。これらの事業者が都市公園の新たなプレーヤーとして重要な位置を占めようとしています。

大型商業施設と一体となって地域振興の核となる都市公園が出現しています。公的資金のみに頼らない、民間活力による新たな手法です。大型商業施設と融合した都市公園が地域づくりの主役として注目されています。

一方で老朽化の進行する地域の都市公園の活用・再生が重要な課題となっています。そこでは、市民や地域事業者が担い手として期待されます。

都市公園は地域の核となるインフラとしての役割をこれまで以上に高めることが求められます。自治体、民間企業の活力、市民や地域の力等によって、地域の核となる都市公園の整備・再生が進められます。都市公園に新たな命を吹き込んで、地域の暮らしや経済において重要な機能を果たそうとするとき、ランドスケープアーキテクトに期待される役割の大きさを改めて認識します。

南町田グランベリーパーク ～すべてが公園のようなまち～

町田市都市づくり部都市政策課・公園緑地課

はじめに

南町田グランベリーパークは、東京都町田市の南端にある東急田園都市線「南町田グランベリーパーク駅」（2019年10月1日改称）南側の約22haのエリアを指す。

本プロジェクトは、駅に直結して大規模な都市公園と商業施設が隣合う本エリアの立地特性を最大限に活かして、鉄道事業者と行政が共同して駅前空間の魅力を再構築することで、都市における緑と賑わいの融合と、人口減少・超高齢化を迎える郊外住宅地の持続的発展を目指した、官民共同によるプロジェクトである。

本エリアでは、1970年代以降に鉄道施設に合わせた土地区画整理事業により約40haにわたって駅前市街地と低層住宅地、都市公園が整備され、このうち、駅前の街区では、2000年から17年間、商業施設「旧・グランベリーモール」が営業していた。旧モールが暫定利用期間10年を超え、再整備の必要があった中、駅南北間の分断や鶴間公園の防犯性・魅力不足、雨水浸水対策などの地域課題を包括的に解決し、『町田市都市計画マスタープラン』における中心市街地に次ぐ賑わいの拠点「副次核」として、郊外住宅地における新たな暮らしの拠点を再整備することが求められてきた。

そこで、鉄道事業者であり、駅前商業事業者である東急株式会社・東急電鉄株式会社と、地元自治体である町田市が連携・共同して、駅・商業施設・都市公園等の同時・一体的な再整備に取り組むこととし、新たなまち「南町田グランベリーパーク」が2019年11月にまちびらきを迎えた（図-1）。



図-1 まちびらき後の様子

すべてが公園のようなまち

一度計画的に整備された市街地を再魅力化するにあたり、本プロジェクトでは、「賑わいと自然の融合」をテーマに掲げ、公園をはじめとする「まちのオープンスペース」を、これからのまちの価値を決定づけるものとして、官民で見定めた。その上で、駅から公園まで人がどのように楽しく歩き回れるか、そしてこのまちを装置にしてどのような活動を生み出せるか、この場所で展開される“人々のアクティビティ”を本旨とし、その“器”としてのまちの設えを考える思考プロセスを重視してきた。

こうした考えの下、駅を降り立った瞬間から空とみどりをふんだんに感じる「すべてが公園のようなまち」、ここにいるだけでいつの間にか心も身体も健康になる「南町田ならではのパークライフの実現」というまちづくりコンセプトを据え、駅から商業施設、公園に至るまで、官民の境目なく、オープンスペースを中心とした市街地のリデザイン（再編集）を施し、まちそのものが、郊外住宅地における“暮らしのグリーンインフラ”となることを目指した。（図-2）



図-2 プロジェクト計画図

都市基盤の再構築と歩行者ネットワーク

本プロジェクトでは、まず既成市街地の都市基盤の再構築に取り組んだ。

当初の土地区画整理事業では、国道16号につながるリング状の道路を配して、中規模な商業街区6つ及びこれに隣接する都市公園からなる駅前市街地が形成されたが、商業街

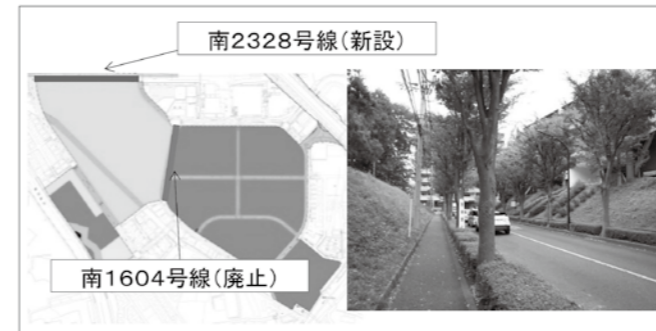


図-3 都市基盤の再配置（左：道路再配置の概要と、廃止前の道路の様子⇒右：まちびらき後）

区と公園とは掘割状の道路で隔てられており、相互の連絡・連携はほとんどなされず、公園は来街者から認知されにくい状況だった。そこで、再度の「土地区画整理事業」を実施し、商業街区間の道路、及び、公園と商業街区の間の道路を再配置することで、商業街区を大街区化したうえで、公園も含めてスーパーブロックに構成しなおすという、駅前エリアの区画の再編を行った。（図-3）

こうしてスーパーブロック化した商業街区・公園を基盤として、駅・商業施設から公園、そして周辺の住宅地まで歩車分離かつバリアフリーでつなげる歩行者ネットワークを形成し、まち全体に張り巡らされた歩行者ネットワークの要衝には14の広場空間を設けた。エリアごとの整備主体は異なるが、14の広場を連続的に配置することで、歩行者ネットワークと合わせて緩急のあるまち並みを構成し、“歩いて楽しいまち”を構成している。これらの各広場は趣の異なるデザインとし、積極的に緑化やベンチ・デッキを配置することで、人々の活動や憩いが生まれるよう工夫を施した。

これからの郊外での暮らし方の“器”となる魅力的な機能集積

こうして整え直した骨格的な基盤の上に、官民が各々の役割分担のもと、大きく3つの機能を載せ、南町田グランベリーパークというまちを構成している。

①鶴間公園【町田市整備】

従前は、駅前の大規模な運動公園としては閑静で、運動施設もテニスコート2面と広場程度と、機能性も不足していた。今回、パークライフの中心的機能として、心身ともに健康になる公園の有り様を探求。2つの広場や里山の風景が残る樹林エリア、ケヤキ並木が象徴的な水道道路などの要素構成はそのままに、ひとつひとつの設えを丁寧に見直すリノベーションを図り、子どもからシニア層まで多世代が思い思いに過ごせる、滞在性・活動性の高い公園に生まれ変わった。（図-4）



図-4 再整備後の鶴間公園

さらに、中学校予定地だった川側のエリアについて、土地区画整理事業により雨水調整池を増設・地下化し、その上面利用として新たに公園区域に追加して、人工芝グラウンドやランニングトラックなどからなるスポーツエリアとした。

「アクティブデザイン」は当公園の特徴的な取組のひとつで、単にスポーツ施設を整備するだけでなく、舗装やサインなどを通じて、思わず身体を動かしたくなるような、人々の活動を誘発する仕掛けを施している。（図-5）



図-5 スポーツエリアとアクティブデザイン

また、木造のカフェ・クラブハウス、森の中や水辺などで多様に遊べる、子どものための3つの遊び場を新たに配置したほか、隣接する境川の河川用通路とも空間的なつながりをも

たせることで、川沿いでのランニングやサイクリング等のアクティビティとも積極的に連携を図ることをめざした。

②駅・商業施設【東急整備】

商業施設は、旧モールと同様にオープンモール型とし、商業街区を回遊する歩行者通路に面して、低層の分棟式の建物が立ち並ぶ景観とした。「ヴィレッジ型空間」をコンセプトに掲げ、幅員や建物角度を細やかに調整することで歩行者通路に変化をもたらし、ストリートやプラザに店舗のにぎわいを加えることで、まちなかを回遊する楽しさを演出した。

大規模商業施設で重要となる駐車場は、駅前の街区では改札階より下に、中央の街区では広大な丘状の敷地の中心に配置することで、駅を降りてから公園へ至る歩行者に駐車場の存在を感じさせないように配慮している。(図-6)



図-6 開放的な商業施設通路 © Peanuts Worldwide LLC

鉄道駅舎の改良も合わせて実施し、安全性や利便性の向上といった機能的更新に加え、自由通路にかかる大屋根によりシンボリックな大空間を創出し、まちの玄関口として、ホームに降り立った瞬間から公園のみどりや商業施設の賑わいを感じることができる開放的な駅空間とした。

③パークライフ・サイト【官民連携による整備】

土地区画整理事業により公園と商業街区をつなぐ位置に再配置した町田市宅地で、市民・来街者の多世代が様々な出会い、学び、活動できる場所となるよう、そして、その機能を民間活力により創出することを念頭に事業検討を続け、株式会社ソニー・クリエイティブプロダクツの事業参画を得て、米カリフォルニア州にある「チャールズ M. シュルツ美術館」世界唯一のサテライト館となる「スヌーピーミュージアム」を核とし、図書を通じたコミュニティ醸成の場である「まちライブラリー」、児童館「子どもクラブ」など多機能が同居するエリアを創出した。

公園で育った木々を次のまちにつなぐ

本プロジェクトでは、公園を中心に、まちで活動する方法やアイデアを学び実践する「まちのがっこう」という市民ワークショップを3年にわたり取り組んできた。この「がっこう」の取組を通じて、公園をただ「利用する」という他者目線ではなく、より自分目線でどうしたら「楽しく使いこなせるか」を考えようと呼びかけ、実際に市民と一緒に試行するというアプローチを重視してきた。その結果として、自らこのまちのプレーヤーになりたいという多くの意欲的な市民の思いを醸成でき、まちにポジティブに関わろうとする市民活動が湧出する空気感を育てることができた。(図-7)



図-7 2019年度まちのがっこう祭

また、この「まちのがっこう」の取組に加えて、地域との対話を通じて、学び、試行し、組み立てながら取り組んだ特徴的な事柄として、公園で育った木々の継承に着目したワークショップがある。プロジェクトに伴って伐採など整備の手を加えることになった公園の木には、地域の方々の思いがたくさん詰まっていた。この思いを新しいまちにつなげ、盛り込んでいくため、本プロジェクトでは、都市の中の緑のあり方や、その活用方法を市民とともに学び、体験するプログラムを4年にわたり実施してきた。2016年は「木と遊び」をテーマにしたワークショップ、2017年は、公園で伐採したケヤキの大木を、丸太の状態からみんなで一緒に製材しベンチを製作するワークショップ、2018年は整備前の樹林から苗木を採ってみんなで持ち帰って育てようという「苗木づくり大作戦」、そしてまちびらき直前の2019年には、公園の伐採材からウッドブロックをつくり、みんなでパークライフ・サイトのエントランス壁にブロックを貼って壁の仕上げを行うワークショップと、前年に採取した苗木を公園に再び戻す「植樹祭」を、一連して取り組んできた。(図-8)



図-8 ウッドブロックワークショップの様子

また、これらのワークショップを通じてプロジェクトとしてまちの中に生み出した空間が、パークライフ・サイト内「まちライブラリー」で、本棚、椅子・テーブルなどの什器を公園などの伐採材から作製し、公園の緑を眼前にし、木の香りに包まれた豊かな空間が生まれた。(図-9)



図-9 まちライブラリー内観

これらの取組はどれもプロジェクト当初は想定してなかったが、市民との対話を通じて、都市で生きる木々の積極的な活かし方を提起するものとなったとともに、地域みんなにとっての大切な体験、そして魅力的な都市空間を創生できたものと考えている。

まちの共通デザインとしてのグリーンインフラ～「LEED-ND」ゴールド認証

本プロジェクトでは、従来の雨水流出抑制に加え、グリーンインフラによる雨水管理計画を採用した。その特徴としては、エリア全体における浸透性舗装の採用とバイオスウェルの設置があげられる。バイオスウェルには、「雨のみち:バイオスウェル」と呼んでいる石を敷き詰めた隙間の多い溝状のもの、そして「雨のにわ:レインガーデン」と呼んでいる窪地状の植栽帯、の大きく2つの設えを採用し、これらを商業街区から公園に至るまで各エリアに共通して施したことがまちの景観の一

体性を高めることにつながり、本エリアの環境への取組に関する象徴的な存在となった。(図-10)



図-10 バイオスウェル

本プロジェクトでは、鉄道駅・商業施設・都市公園という主旨・目的の異なる施設を、ひとつのまちを構成する要素として一貫通貫した意図をもってつなぎあわせるため、まちづくりの意義を総合的に解く「LEED ND(まちづくり部門)」にチャレンジし、2020年7月にゴールド認証を取得した。「LEED ND部門」のゴールド認証取得は国内2例目、駅を認証エリアに含むものは国内初である。

認証においては、駅から商業・公園までみどりとにぎわいを感じながら安全に回遊できる「ウォークアブルでコンパクトなまちの構造」そのものと、まち全体にわたる「グリーンインフラデザイン」の考え方が高い評価を受けた。官と民が、双方ならではの異なる視点を持ちつつ、まちの特徴を丁寧に捉えながら、その場所にとっての最適なデザインを丁寧に施していったことが、世界標準の環境認証という形で評価されたことは、官民パートナーシップにより推進したまちづくりの成果として重要な意義をもつと考える。

おわりに

本プロジェクトは、行政と鉄道事業者がタッグを組み、人口減少、高齢化の動向を見据えた沿線市街地の持続可能性を追求しているものである。官民が双方の資源を持ち合っ、まちの特徴を読み解き、「自然とにぎわいの融合」というテーマを掲げて、都市公園とオープンモールを柱とする同時かつ一体的なエリア開発に取り組んだ。

まちびらき後、南町田グランベリーパークには、駅や商業の賑わいと公園のみどりが、心地よく緩やかに、しかしダイナミックにつながる風景が形成され、ここでしか体験できないアクティビティと憩い・ゆとりの時間を提供している。

新宿中央公園の魅力向上に関する取り組みについて

新宿区みどり土木部みどり公園課

1 公園の現状と魅力向上の必要性について

新宿中央公園は、西新宿に位置する区立公園最大の面積（約8万8千㎡）を有する公園である。

同公園の東側には新宿駅があり、都内屈指の商業・娯楽・業務・滞在機能が集積している。一方、西側周辺には住宅街が広がっており、近年では再開発による高層マンションも増加している。

規模が大きく、周辺環境にも恵まれた公園であることから、日常的にワーカー、来街者、居住者など様々な方々に利用されている。

一方で、新宿中央公園に対する一般のイメージはどうか。ホームレスが寝泊まりしている公園、樹木が鬱蒼として薄暗い公園、夜はちょっと怖い感じの公園、こうしたイメージを持たれていることも事実である。

ホームレス問題については、福祉施策と連動した様々な対策を進めた結果、現在では不適切利用はなくなっている。また、必要に応じて樹木の整理を行うなどして、園内の見通し改善等も進めている。さらに、平成25年度からは指定管理者制度を導入し、公園の管理運営レベルの向上を図っており、利用者からも一定の評価を得ている。

にもかかわらず、今も公園がそのようなイメージで語られているということは、部分的または対症的な対応だけでは、一度染み付いた公園の印象を変えることはなかなか難しいということであろう。

公園自体、昭和50年に東京都から区に移管された後、昭和55年度から58年度にかけて大規模な改修を行って以降、大きな手は入れていない。

公園に対するニーズが多様化・高度化してきている今、恵まれたポテンシャルを持つ新宿中央公園の魅力向上に取り組む必要性は、大いに高まっていた。

2 新宿中央公園魅力向上推進プランの策定

区では、平成28年8月に学識経験者や公園管理の専門家、地元町会、公園サポーター、地元企業関係者などで構成された検討会を立ち上げ、平成28年10月から平成

29年6月にかけて検討を重ねた結果、平成29年9月に「新宿中央公園魅力向上推進プラン」を策定した。

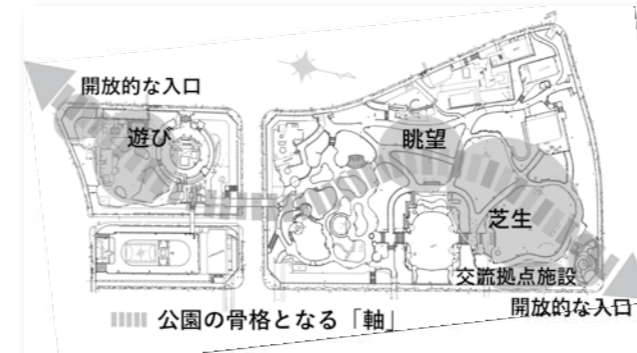
<新宿中央公園魅力向上推進プランの概要>

- ◆計画期間◆
2017年度から概ね20年後の公園の将来像を示して、その実現を図っていく。
- ◆公園の将来像◆
だれもが誇りと愛着をもてる「憩い」と「賑わい」のセントラルパーク
- ◆魅力づくりのための3つの視点◆
 - ① 西新宿ならではの「魅力」を活かす
 - ② 地域の公園としての「魅力」を高める
 - ③ 民の力を活用して「魅力」を創る

このプランに盛り込まれた数多くの取り組みのうち、まずは、西新宿のまちの魅力を活かし、公民連携を活用するなど、公園の魅力づくりを効果的に進めることができる事業を「早期実現を目指す取り組み」と位置付け、事業展開することとした。

事業展開の方法である。まず公園を南北に貫くゾーンを「みどりを活かした憩いと賑わい空間」とし、公園の骨格となる「軸」に位置付ける。この「軸」上に、公園の魅力を活かした特色あるエリアを連担して整備していくことで、「軸」に沿って公園に人の流れをつくり、園内に回遊性を生み出す。さらに、この人の流れを西新宿において展開される様々な魅力ある取り組みと連携させることで、西新宿エリア全体に回遊性を創出する。このようにして、新宿のまちの魅力や価値の向上を図っていくこととした。

そして、具体的な「早期実現を目指す取り組み」として、「芝生」・「眺望」・「遊び」をテーマにしたエリアの整備、人々を公園に誘う開放的な入口の創出（南北2か所）、及び民間活力を活用した交流拠点施設の設置に取り組むことを決めた。



早期実現を目指す取り組み

3 芝生広場及びポケットパークの整備並びに交流拠点施設の設置

この中で最初に取り組んだのは、区による芝生広場の再生と公園の北東側入口であるポケットパークの再整備、そして民間事業者による交流拠点施設の設置という公民連携による公園の魅力づくりである。芝生の大空間と区立公園初のカフェやレストランをコラボレーションさせることで、これまでの公園のイメージを打破することに挑んだ。



芝生広場エリア等平面図（再整備後）

(1) 芝生広場の再生

芝生広場は、昭和58年度の公園の大改修に伴い誕生した空間である。ただし、高木も数多く植栽したことから日当たりが全般に悪く、実際には芝はほとんど消滅して雑草や裸地の空間となり、芝生広場とは名ばかりの状態となっていた。



再整備前の芝生広場①



再整備前の芝生広場②

そこで、芝生にとって最善の生育環境となるよう、思い切った既存樹木の整理による日照の確保や土壌の改良などを行い、高層ビルが立ち並ぶ中で雄大な空と広大な芝生とを楽しめる開放感あふれる都会のオアシスを誕生させることとした。

再生した約8,500㎡の芝生空間のうち、ポケットパークや交流拠点施設近くの約1,000㎡のエリアは、見て楽しむ「魅せる芝生」として整備した。原則として鑑賞を目的とした芝生であり、春から秋にかけては夏芝（ティフトン芝）、その後は冬芝に植え替えることで、年間を通して美しい緑の空間を提供することとしている。

この場所は、ポケットパークから入園した利用者の目に先ず入ることから、来園してすぐに公園の新たな魅力に触れてもらうことができる。また、ポケットパーク側や交流拠点施設側に人が立ち入らない空間を配置することで、それぞれの施設から見たときの芝生広場に奥行き感を与え、同広場を実際以上に広く見せる効果も狙っている。

再整備前



再整備後



芝生広場（魅せる芝生）

一方、その他のエリアには野芝を植栽し、日常的に利用できる芝生空間と位置付け、様々な活用してもらうこととした。



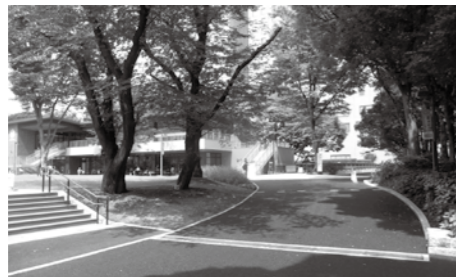
再整備後の芝生広場（野芝エリア）

芝生広場内の園路は、舗装改修を行うこととした。原則として従前と同じアスファルト舗装に改修したが、まちとの接点となるポケットパーク付近や交流拠点施設前など、ポイントとなる部分については、ブロック舗装とし景観性を高めた。なお、舗装改修に際しては、階段部分のスロープ化を図り、一部園路を45cm程度嵩上げするなどして、ユニバーサルデザインを進めた。

再整備前



再整備後



芝生広場内の園路（段差解消部分）

(2) ポケットパークの再整備

せっかく芝生広場を再生させても、それが人目に付かなければ、公園の魅力に気付いてもらえず、公園のイメージを変えることに繋がらない。しかしながら、公園の北東側入口であるポケットパークは、周囲を植栽地に囲まれ、道路からの見通しやアクセス性が悪かった。芝生広場との関係においても、植栽地や階段で空間的に分断され、ポケットパーク内から芝生広場を十分視認できない状況であっ

た。

そこで、まちに対して開放的な空間にして公園へのアクセスの向上を図るとともに、芝生広場との連続性もつくり出すことで、ポケットパークをまちと芝生広場とを視覚的にも物理的にも結びつける結節点とすることとした。

再整備によって、階段はスロープとなり、見通しを阻害していた植栽地は新たな公園へのアクセスルートとなった。こうして、ポケットパークは、まちと公園とに一体感をつくり出す開放的なエントランス空間に生まれ変わることとなった。

再整備前



再整備後



道路から見たポケットパーク

再整備前



再整備後



ポケットパークから芝生広場を望む

(3) Park-PFIによる交流拠点施設の設置

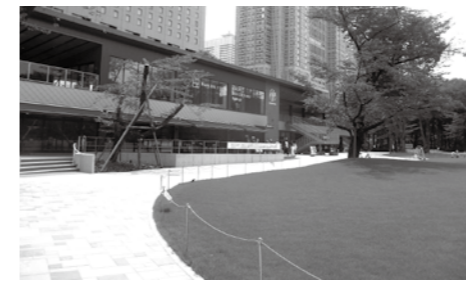
新宿中央公園の魅力を高めるには、これまで本公園にはなかった新たな魅力を創出することも非常に効果的である。そこで、再生した芝生との組み合わせによる相乗効果を得るため、芝生広場に隣接して民間事業者による交流拠点施設を設置することとした。

交流拠点施設の設置にあたっては、Park-PFIを活用して事業者の公募・選定を行った。この結果、平成31年2月に株式会社新都市ライフホールディングスが設置予定者に決定し、同年3月、事業者から提出された公募設置等計画の認定を行った。

<交流拠点施設の概要>

- 名称：SHUKNOVA（シュクノバ）
- 鉄骨造（一部 鉄筋コンクリート造） 地上2階建
- レストラン（1階） 約340㎡
- コーヒーストア（1階） 約170㎡
- アウトドアフィットネスクラブ（1階、2階） 約380㎡

特定公園施設としては、建物2階に「みはらしテラス」を、建物周囲に「えんがわテラス」をそれぞれ設置し、民間事業者が管理運営も行うこととした。



交流拠点施設と魅せる芝生



みはらしテラスから見た芝生広場

4 整備工事後の様子

区が実施する整備工事は、令和元年7月に契約し、令和2年7月、交流拠点施設を含めた全ての園内工事が竣工した。そして7月16日、交流拠点施設の開業と併せて芝生広場を含めた整備エリアが全てオープンした。

現在、芝生広場や交流拠点施設は、多くの利用者で賑わっている。当初の狙いであった両施設による相乗効果は十分発揮されているようである。

また、公園の変貌ぶりや芝生の美しさ・心地良さを高く評価する声も数多く耳にしており、整備に関わった者としてはうれしい限りである。

交流拠点施設の飲食施設が最大22時まで営業していることから、夜の公園利用も格段に増加しており、ナイトライフが楽しめる公園にもなってきたようである。



現在の利用状況

5 今後の展開について

第一弾の取り組みとしては、十分な成果を出せたと考えている。今後は、この良い流れを止めることなく持続・発展させることが重要である。

芝生広場については、芝生をいかに美しく保ち続けるかが鍵である。また、芝生広場等を活用したソフトの展開も今後の課題であろう。指定管理者や交流拠点施設の事業者等と連携し、適切な維持管理や運営管理を進めていきたい。

公園の魅力向上の取り組みは、引き続き進めていく。今年度は、高層ビルなど西新宿ならではの景観を楽しめる空間として、新たに「眺望のもり」を整備する。その後は、遊びの空間である「ちびっこ広場」の再整備も予定している。

公園から始まる新宿の新たな魅力を多くの方々に堪能していただけるよう、今後とも全力で取り組んでいきたい。



今年度整備予定の「眺望のもり」（イメージパース）

里見公園 ～住宅地の中で地域とともにある公園～

市川市緑の調査専門委員 塚原道夫

はじめに

近年、都市公園のあり方に変化がみられる。大規模商業施設と一体となって、まちのにぎわいづくりに役立っている公園が整備されている。一方で、住宅地において地域の

暮らしに根付いている公園がある。これらの公園の役割を忘れてはならない。市川市の住宅地に「いい公園」があるという話を耳にする。そこで、この公園を取り上げたい。

歴史

東京でJR総武線に乗り、江戸川鉄橋を渡ると千葉県口市川市である。江戸川左岸の小高い台地は、国府台（こうのだい）と呼ばれ、ここに下総国府が置かれ、下総国の政治や文化の中心であった。

室町時代の天文7（1538）年10月、足利義明は里見義堯等を率いて国府台に陣をとり北条氏綱軍と戦った。北条軍が勝利をおさめ義明は戦死し、房総軍は敗退した。続いて永禄7（1564）年正月、里見義堯の子義弘は再度国府台城で北条軍と対戦したが、この合戦も北条軍の大勝で終わり、以降この土地は北条氏の支配するところとなった。江戸時代に徳川家康が関東を治めると、国府台城は江戸府職の地であることから廃城となった。

この地に大正13年、佐々木浅次郎という民間人によっ

て「里見八景園」という遊園地が整備された。里見八景園には何軒かの茶店があり、そのころ珍しいプールや、子供の乗れるゴーカートがあって人気だった。ほかにも舞台や大滝、動物小屋もあった。はじめのうちは珍しいので、東京からも市川の近くからも多くの人々が来た。しかし、次第に来訪者が減少した。やがて昭和恐慌を迎え、飼料を買う資金がなくて動物の飼育をやめるなど、縮小せざるを得ない状態に陥った。そして、昭和8年頃、里見八景園は閉園し、後に軍が使用した。

戦後になって、市川市はこの由緒ある古戦場を記念するために、一般の人々の憩いの場として「里見公園」を開設した。

公園の概要

所在地 千葉県市川市国府台3丁目9番
 面積 8.4ha
 種別 地区公園
 主な施設 バラ園、噴水広場、芝生広場、花と緑のステーション、里見茶屋、管理事務所等
 樹木 サクラ類(ソメイヨシノ、サトザクラ、カワヅサクラ、オオシマザクラ、ヤマザクラ)
 バラ園 四季咲大輪系(芳純、マリアカラス等)、四季咲中輪系(プリンセスアイコ、早春等)、ミニチュア系(ティーペアー等)、つるバラ系(アンジェラ、羽衣等)、修景用バラ(マイナーフェア等)、約93種、約600本。



噴水広場



バラ園

催し等の開催

花と緑のステーションにおいて、公益財団法人市川市花と緑のまちづくり財団等によって講座・催し等が開催されている。

区分	内容
体験教室・講座	市川市の緑地を知る体験教室
	樹木の手入れ講座
	ハンギングバスケット講座 寄せ植え講座
催し	親子で木工工作体験講座
	里見公園桜祭り
相談	いちかわローズフェア 園芸相談



国府台城跡石碑



里見群亡の碑



バラ講座



里見公園桜祭り

販売・喫茶等

筆者は、本公園に「駄菓子屋」があって、子供たちが学校から帰って公園に遊びに来る頃を見計らっておばちゃんが店を開けると、子供たちが大勢集まってくる、今どき珍しい光景を目にした記憶がある。なつかしい光景は今どうなっているかと訪れた。

「里見茶屋」という売店がある。「国府台共栄会」という地元商店による団体が経営しているという。商品は、焼きそば、焼き鳥、アイス、飲料等である。代表者は、里見公園桜まつりの実行委員会も務めている。土日祝に営業しているが、残念ながら新型コロナウイルスのために、5月から営業を自粛している。再開が望まれる。

公園を散策していると公園の北側に茶店をみつけた。この店はどうやら公園の区域内ではないようだ。公園に隣接している民家が、公園に向かって店を出している。「里見茶屋」は、市川市都市公園条例の「設置管理許可」に基づいて設置している。この茶店の法的根拠は？などと専門家はつい余計なことを考えてしまう。

堅い話とはかきとして、隣地から公園に向けて茶店をだして公園利用者にサービスを提供している。この方法が使えれば、まちなかの公園がもっと楽しいものに生まれ変わるのではないか。



里見茶屋



公園に隣接している民家による茶店



みどりのネットワーク

まちの中において公園や緑地は存在するだけで重要である。さらに公園や緑地、水辺空間が連携して、個々の存在から地域全体の資産となることが望ましい。

国府台地区を含む市川市北西部では、江戸川河川敷・里見公園・国府台緑地・じゅん菜池緑地・小塚山公園・堀之内

内貝塚公園・堀之内緑地という一連の公園・緑地・水辺空間が結び、水と緑の回廊を形成している。延長5.27kmの回廊は、まちの中の貴重なみどりの拠点・自然とのふれあいの場としての役割を果たしている。



市川市北西部 水と緑の回廊ルート図

結び

市川市は、人口49万人であり、都市公園数417箇所、都市公園面積175ha、1人当たり都市公園面積3.56㎡である。本公園は、整備後61年が経過している。公園施設が老朽化している、樹木が茂ってやや暗い印象を与える。リニューアルが考えられる時期である。

本公園では、公益団体による体験教室や講座の開催、「里見公園桜祭り」・「市川ローズフェア」の開催、地元商店会による「里見茶屋」の営業、さらに番外編として公園の隣家による「茶店」の営業等、さまざまな取り組みが行われている。派手ではなく、新しくもないが、地域にしっかり

根付いて、地域住民とともにあり、地域に不可欠な存在となっている公園の姿をみる。

今後、都市公園の老朽化が進むことが予測され、都市公園の維持管理が課題となる中、本公園における地域ぐるみの取り組みは、貴重な示唆を与えてくれる。

【出典】

- ①里見公園リーフレット（市川市）
- ②国府台の里見八景園（中津攸子）
- ③令和元年度 公益財団法人市川市花と緑のまちづくり財団事業報告書

公園と店舗が一体となった 日本最大級の Park-PFI 事業「Hisaya-odori Park」が 2020 年秋誕生 発信性と日常性を併せ持つ、名古屋の新しいシンボルへ

三井不動産株式会社

三井不動産株式会社は、愛知県名古屋市栄地区に所在する久屋大通公園（北エリア・テレビ塔エリア）に、公園と店舗が一体になった「Hisaya-odori Park（ヒサヤオドオリパーク）」を 2020 年秋にオープンした。

本事業は名古屋市が策定した「栄地区グランドビジョン」に基づき、2017 年 10 月に実施された錦通から外堀通までのエリアの整備運営を行う事業者の公募において、同社が 2018 年 2 月に事業者として選定され進めてきたものである。南北約 1km にわたる公園に 24 棟の店舗施設を設置、公園

とあわせて運営・維持管理を行う Park-PFI 制度を用いた事業として日本最大級のプロジェクトとなる。

店舗施設については、全国の人気店をはじめ、飲食・物販あわせて約 35 店舗が出店し、市民の日常的な憩いの場としての役割から、ファッション、スポーツ、グルメ、コミュニケーション、リフレッシュなど多彩なサービスを提供する。本事業を通じて公園の新しい価値を創造し、名古屋の新しいシンボルとして様々な情報発信を行っていく。

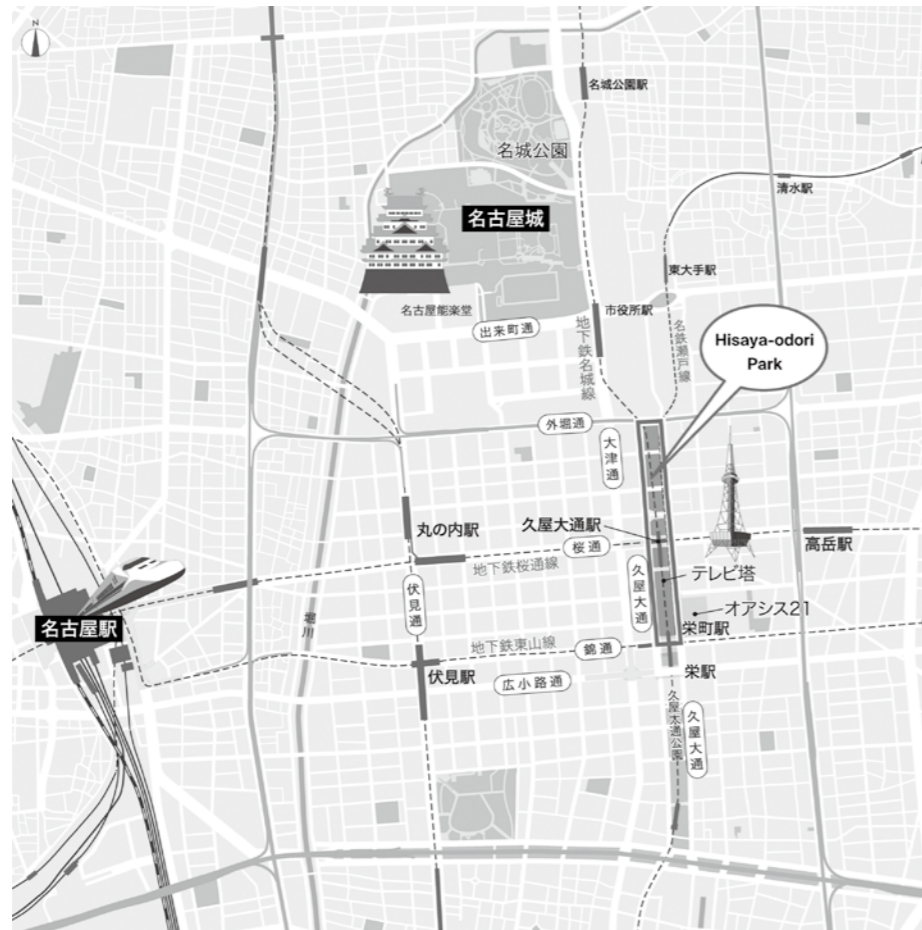
名古屋市の賑わいの拠点である栄の中心に、「Hisaya-odori Park」誕生

名古屋市の賑わいの中心である「名古屋駅地区」と「栄地区」、歴史観光の中心である「名古屋城」は、名古屋市を代表する観光拠点となっている。今後、リニア中央新幹線の開業を 2027 年（予定）に控え、これら 3 つのエリアが相乗的

に賑わいを創出することが期待されている。

「栄地区」に位置する「Hisaya-odori Park」の開業は、名古屋全体の賑わいをさらに向上させる。

名古屋都心部エリア図



都市基盤を再編した公園の整備方針

久屋大通公園の再生は、栄地区全体へ賑わい効果を波及させるリーディングプロジェクトとなる。このため、こ

れまで以上に市民や国内外からの観光客が利用しやすい公園とするため、全面的な再整備を行った。

① 健全な樹木環境の整備

存樹木の健全な育成に向けた密度調整を行うとともに、四季折々の表情を楽しめる木々を新植する。新たに整備される芝生広場には隙間貯留層と呼ばれる基盤材を設け、保水と浸透作用による緑の良好な生育環境としての機能を向上させる。



2月～5月頃までの長い期間眺めることができる8種類のサクラ類の新植を含め、四季折々の表情を楽しむことができる植栽計画

② 誰もが利用しやすい公園

新たに整備される約 1 万㎡におよぶ多目的広場は、来園者が思い思いの時間を過ごす空間であり、災害時には一時的な広域避難所として利用することができる。様々なアクティビティにも活用され、イベントの実施や文化・交流の促進につながる機会を提供する。公園内には地下街の「セントラルパーク」と公園をつなぐエレベーターとエスカレーターが新設され、動線と舗装の再整備によりバリアフリーでのアクセスが確保される。公衆トイレ、ベンチ、照明等も全面改修し、安心安全で誰もが利用しやすい公園として生まれ変わる。



芝生広場のアクティビティイメージ

③ 観光の拠点として

名古屋を代表する新たなスポットとして、全長 80m の大きな水盤を設置する。夜には照明や音楽による印象的な空間演出を行うことを予定している。また、国内外の観光バスを受け入れる乗降場を整備し、タイムズ 24 棟の WEB 予約システムの導入と運営管理により利便性を高める。地下街（「セントラルパーク」・「森の地下街」）と地上をつなぐ空間には約 295 インチの大型デジタルサイネージを設置し、イベントの開催や情報発信を行う。その他主要サインの多言語対応や、アートベンチの設置なども行う。



アートベンチイメージ



水盤ミスト演出イメージ



デジタルサイネージイメージ



敷地配置図

※上記の写真・イラストはすべてイメージです

文化発信、交流拠点の創出に向けて

「Hisaya-odori Park」は訪れるたびに新たなヒト・モノ・体験・文化に出会い、多様な感性が交わり、新たな価値を生み出すようなコミュニティが創出される場を提供していく。名古屋の新たな観光資源としての“発信性”と、

憩いの場としての“日常性”の両方を追求し、どんな時でも、地域に笑顔を添える、そんなプラットフォームを目指す。また、地域でのアクティビティやイベントと連動することで、公園の賑わいを周辺地域へと波及していく。

ユルユル

公園が本来持つ寛容性やくつろぎ、ユルやかな心地よさ

ワクワク

刺激的なアートや、フォトジェニックなシカケ、楽しいイベントなど、ワクワクが止まらない公園へ

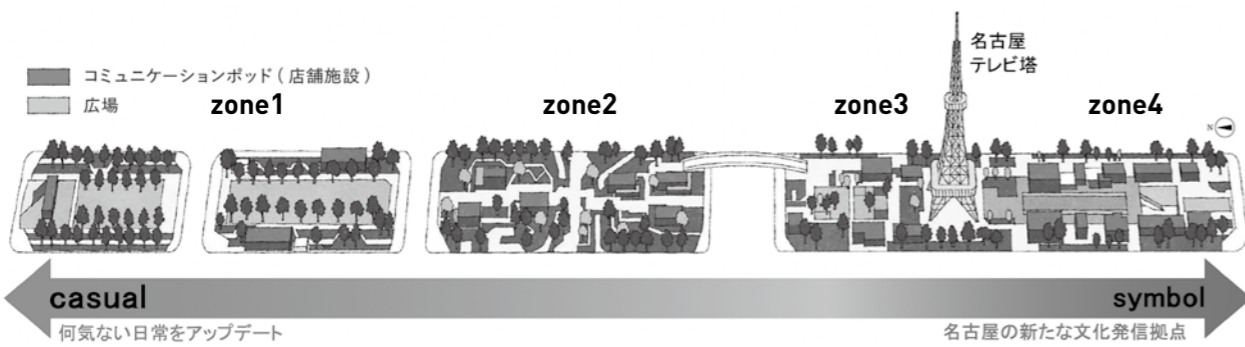
ニコニコ

家族や友達、同僚と、美味しいを囲んでいつもは気軽に、そして時にはリッチに、「公園ごはん」で会話がはずむ

ウキウキ

朝活でちょっとしたヨガ体験や、ランチ休憩のスポーツも公園は、何気ない日常をアップデートしてくれる

発信性と日常性を併せ持つ4つのゾーン



名古屋テレビ塔は1954年に日本最初の集約電波塔として建てられ、現在では国の登録有形文化財に指定されている「名古屋の顔」と言える存在である。

各店舗施設のことを指す。各店舗は、公園の賑わいを一緒に創るパートナーとして、「救急窓口サポート」「案内サポート」「公園の賑わい創出サポート」のサポートを行う。

コミュニケーションポッドとは「Hisaya-odori Park」内の

所在地	名古屋市中区丸の内三丁目、錦三丁目 他
敷地面積	約54,122㎡(約16,371坪)
構造規模	鉄骨造2階建て(一部平屋)
延床面積	約8,062㎡(約2,439坪)
事業者・公園指定管理者	三井不動産株式会社
公園設計・施工	株式会社日建設計・大成建設株式会社・岩間造園株式会社
建築設計・施工	大成建設株式会社

〈ZONE1〉大型芝生広場を擁する学びの森ゾーン



公園内で最も大きい芝生広場では、寛ぎや憩いの空間の中で四季を満喫できる多彩な空間づくりを行う。ヨガなどの朝活の開催やマーケットの開催などにより、日常的に賑わいを創出する。また、「学びの森」をテーマに掲げ、来園者の好奇心が沸き立つような店舗を誘致していく。

〈ZONE2〉小径のそぞろ歩きを楽しむ、アーバンリゾートゾーン



アーバンリゾートゾーンでは、小径に四季折々のアートやライトアップ演出を展開し、そぞろ歩きの楽しさを創出。外の気持ちよさを感じられるテラスのあるカフェや、日常に彩りを添えるレストランなど、6つの個性豊かな飲食店が入る。

〈ZONE3〉日常をより豊かにするコミュニケーションゾーン



気軽にアクティビティを楽しんだり、気軽に人と集まったり、くつろいだり、日常のご利用いただける芝生エリア。「スポーツコミュニティ」をテーマとした店舗は、目の前の広場を活用したアウトドアイベントを予定している。

〈ZONE4〉名古屋の魅力を発信する新たなシンボルゾーン



愛知県芸術劇場・オアシス21などが位置する名古屋の文化発信力の要となるエリアは、国内外からの来園を促進する発信性の高いエリアとなる。グローバルブランドを中心に、日本限定商品を販売する店舗のほか、東京で話題のベーカリーレストランや京都の和カフェ、大阪で人気のインスタ映えするクレープリーなど話題性の高い飲食店が出店し、ミスト演出を施した水盤を臨みながらの食事を楽しむことができる。

※上記の写真・イラストはすべてイメージです

一般社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会 会員名簿

正会員 80

◎：会長 ○：副会長 ◇：理事 □：監事

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
株式会社アーバンデザインコンサルタント	03-3353-1016	望月英彦	160-0022	新宿区新宿 1-26-9 ビリーヴ新宿	03-3353-1018
株式会社アーバンデザインコンサルタント	092-282-1788	○ 大杉哲哉	812-0029	福岡市博多区古門戸町 7-3 古門戸中笠ビル	092-282-1777
株式会社愛植物設計事務所	03-3291-3380	趙 賢一	101-0064	千代田区猿楽町 2-4-11 犬塚ビル	03-3291-3381
株式会社あい造園設計事務所	03-3325-6660	鈴木 綾	168-0063	杉並区和泉 3-46-9 YS 第一ビル	03-3325-6262
株式会社荒木造園設計	0727-61-8874	荒木美真	563-0024	池田市鉢塚 2-10-11	0727-62-8234
株式会社荒谷建設コンサルタント	082-292-5481	長谷山弘志	730-0833	広島市中区江波本町 4-22	082-294-3575
株式会社エイト日本技術開発	03-5341-5151	田中紀昭	164-8601	中野区本町 5-33-11 中野清水ビル	03-5385-8505
株式会社エコル	03-5791-2901	矢島唯弘	108-0074	港区高輪 3-4-1 高輪信成ビル	03-5791-2902
株式会社エス・イー・エヌ環境計画室	06-6373-4117	津田主税	530-0014	大阪市北区鶴野町 4-11-1106	06-6373-4617
株式会社エスティ環境設計研究所	092-271-3606	澁江章子	812-0028	福岡市博多区須崎町 12-8	092-271-3662
株式会社LAU公共施設研究所	03-3269-6711	山本忠順	162-0801	新宿区山吹町 352-22 グローサユウ新宿	03-3269-6715
株式会社オオバ	03-5931-5812	菊谷 隆	101-0054	千代田区神田錦町 3-7-1 興和一橋ビル	03-5931-5817
株式会社環境・グリーンエンジニア	03-5209-3691	小林哲央	101-0041	千代田区神田須田町 2-6-5 OS'85ビル	03-5209-3696
環境設計株式会社	06-6261-2144	井上 健	541-0056	大阪市中央区久太郎町 1-4-2	06-6261-2146
株式会社環境設計研究室	03-5401-3900	納谷和親	105-0001	港区虎ノ門 5-3-2 神谷町アネックス	03-5401-3905
株式会社環境デザイン研究所	03-5575-7171	佐藤文昭	106-0032	港区六本木 5-12-22 永坂ビル	03-5562-9928
株式会社環境緑地研究所	011-221-4101	村上恒久	060-0004	札幌市中央区北 4 条西 6-1-1 毎日札幌会館	011-221-4237
株式会社環境緑地設計研究所	078-392-1701	松下慶浩	650-0024	神戸市中央区海岸通 2-2-3 サンエービル	078-392-1576
株式会社環境研究所	06-6306-2481	宇都宮光史	532-0011	大阪市淀川区西中島 6-8-20 花原第 7 ビル	06-6303-8614
株式会社環境ウィーム	097-534-1436	松本克哉	870-0046	大分市荷揚町 10-13	097-537-8578
株式会社キタイ設計	0748-46-4902	梶 雅弘	521-1398	近江八幡市安土町上豊浦 1030	0748-46-5620
株式会社空間創研	075-823-6331	○ 宇戸睦雄	600-8392	京都市下京区綾小路通堀川西入妙満寺町 580 番地 1	075-823-6332
株式会社グラック	03-3249-3010	北川明介	103-0004	中央区東日本橋 3-6-17 山一織物ビル	03-5645-7685
株式会社KRC	026-285-7670	宮入賢一郎	381-2217	長野市稲里町中央 3-33-23	026-254-7301
景域計画株式会社	045-263-9504	八色宏昌	231-0003	横浜市中区北仲通 4-45 松島ビル 3A	045-263-9505
株式会社景観プランニング	028-650-3030	柳田千恵子	320-0036	宇都宮市小幡 1-3-16	028-650-3034
株式会社建設環境研究所	03-3988-1818	浦川雅太	170-0013	豊島区東池袋 2-23-2	03-3988-2018
株式会社現代ランドスケープ	06-6203-1270	◇ 西辻俊明	541-0046	大阪市中央区平野町 3-1-10-603	06-6203-1271
株式会社公園マネジメント研究所	06-6947-6522	小野 隆	540-0012	大阪市中央区谷町 2-2-22 NSビル	06-6947-6523
サンコーコンサルタント株式会社	03-3683-7152	串田宗史	136-8522	江東区亀戸 1-8-9	03-3683-7116
株式会社シビテック	011-816-3001	三浦 亨	003-0002	札幌市白石区東札幌 2 条 5-8-1	011-816-2561
株式会社シン技術コンサル	011-859-2604	佐々木公明	003-0021	札幌市白石区栄通 2-8-30	011-859-2614
株式会社新日本コンサルタント	076-464-6520	西田 宏	930-0857	富山市奥田新町 1 番 23 号	076-464-6671
株式会社スペースビジョン研究所	06-6942-6569	安場浩一郎	540-6591	大阪市中央区大手前 1-7-31 OMMビル	06-6942-6897
株式会社セット設計事務所	042-324-0724	和田 淳	185-0012	国分寺市本町 2-16-4	042-324-3468
株式会社ZEN環境設計	092-643-5500	中村久二	812-0053	福岡市東区箱崎 1-32-40	092-643-5520
株式会社爽環境計画	03-3829-4691	木村 隆	130-0013	墨田区錦糸 3-7-11 メゾン・ド・ファミリー	03-3829-4692
株式会社総合計画機構	06-6942-1877	濱口和雄	540-0012	大阪市中央区谷町 2-2-22 NSビル	06-6942-2447
株式会社総合設計研究所	03-3263-5954	◇ 石井ちはる	102-0072	千代田区飯田橋 4-9-4 飯田橋ビル 1 号館	03-3263-7996
第一復建株式会社	092-412-2230	畠山美久	812-0006	福岡市上牟田 1-17-9	092-412-2240
株式会社デザイン設計	011-222-2325	関 利洋	060-0005	札幌市中央区北 5 条西 6-1-23	011-222-9103

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
大日本コンサルタント株式会社	03-5298-2051	酒井康弘	101-0022	千代田区神田練堀町 300 番地 住友不動産秋葉原駅前ビル	03-5295-2130
高野ランドスケーププランニング株式会社	0155-42-3181	◎ 金清典広	080-0344	河東郡音更町字万年西 1 線 37 番地 旧小学校	0155-42-3863
玉野総合コンサルタント株式会社	052-979-9111	速水厚志	461-0005	名古屋市東区東桜 2-17-14 新栄町ビル	052-979-9112
株式会社地域計画建築研究所	06-6205-3600	水谷省三	541-0042	大阪市中央区今橋 3-1-7 日本生命今橋ビル	06-6205-3601
株式会社地球号	06-6945-7566	中見 哲	540-0031	大阪市中央区北浜東 6-6 アクアタワー	06-6945-7595
株式会社中央コンサルタンツ株式会社	052-551-2541	◇ 三浦利夫	451-0042	名古屋市中区那古野 2-11-23	052-551-2540
株式会社塚原緑地研究所	043-306-8446	◇ 塚原道夫	261-0004	千葉県美浜区高洲 3-11-3 第 2 並木ビル	043-306-8447
株式会社辻本智子環境デザイン研究所	0799-72-0216	辻本智子	656-2401	淡路市岩屋 3000-176	0799-72-0217
株式会社東京ランドスケープ研究所	03-6859-1088	○ 小林 新	151-0071	渋谷区本町 1-4-3 エバーグレイス本町	03-6859-1087
株式会社ドーコン	011-801-1535	◇ 福原賢二	060-0808	札幌市北区北 8 条西 3 丁目 28 番地 札幌エルプラザ 8 階	011-801-1536
株式会社都市技術設計コンサルタント	096-389-8453	西田公一	861-8045	熊本市東区小山 2-23-69	096-389-8506
株式会社都市計画研究所	03-3262-6341	□ 佐藤憲璋	103-0014	中央区日本橋蛸殻町 2-13-5 美濃友ビル	03-3669-8924
株式会社都市景観設計	06-6228-3388	奥村信一	541-0041	大阪市中央区北浜 1-1-21 第 2 中井ビル	06-6228-3387
株式会社都市ランドスケープ	03-5269-8982	◇ 内藤英四郎	162-0065	新宿区住吉町 5-7 曙橋ハイム鍋倉	03-6384-1814
株式会社トロピカル・グリーン設計	098-832-3169	喜屋武 忍	902-0072	那覇市字真地 388 番地 6	098-832-6374
株式会社中根庭園研究所	075-465-2373	中根史郎	616-8013	京都市右京区谷口唐田ノ内町 1-6	075-465-2374
株式会社虹設計事務所	03-3419-7259	◇ 光益尚登	154-0001	世田谷区池尻 3-3-1 キドビル	03-3419-7246
株式会社ニュージェック	06-6374-4032	堀内康介	531-0074	大阪市北区本庄東 2-3-20	06-6374-5147
株式会社パシフィックコンサルタンツ株式会社	03-6777-4433	西上律治	101-8462	千代田区神田錦町 3-22	03-3296-0530
株式会社復建技術コンサルタント	022-262-1234	仲村明信	980-0012	仙台市青葉区錦町 1-7-25	022-265-9309
株式会社復建調査設計	082-506-1853	藤田健一	732-0052	広島市東区光町 2-10-11	082-506-1890
株式会社有ブレット・コンサルティングネットワーク	03-3652-5508	岡島桂一郎	132-0025	江戸川区松江 7-21-19	03-3652-5506
株式会社プランニングネットワーク	03-3810-9381	内藤充彦	114-0012	北区田端新町 3-14-6	03-3810-9384
株式会社ブレイク研究所	03-5226-1101	杉尾大地	102-0083	千代田区麹町 3-7-6 麹町 PREC ビル	03-5226-1112
株式会社文化環境設計研究所	03-6321-8062	落合直文	165-0026	中野区新井 1-12-6 B102	03-6321-8062
株式会社ヘッズ	06-6373-9369	田中 康	530-0022	大阪市北区浪花町 12-24	06-6373-9370
株式会社北海道造園設計	011-758-2261	佐藤俊義	060-0807	札幌市北区北 7 条西 2-6 山京ビル	011-709-5341
株式会社ポリテック・エイディディ	03-6222-8912	吉田 博	104-0041	中央区新富 1-18-8 RBM 築地スクエア	03-5541-3510
株式会社三菱地所設計	03-3287-5750	◇ 植田直樹	100-0005	千代田区丸の内 2-5-1 丸の内二丁目ビル	03-3287-3230
株式会社緑設計	0188-62-4263	◇ 板垣清美	010-0973	秋田市八橋本町 4-10-26	0188-62-4273
株式会社緑の風景計画	03-3422-9511	板垣久美子	154-0012	世田谷区駒沢 2-6-16	03-3422-9530
株式会社森緑地設計事務所	03-5484-6070	藤内誠一	108-0014	港区芝 5-26-30 専売ビル	03-5484-1550
株式会社URリンケージ	03-6803-6200	石原 晋	135-0016	江東区東陽 2-4-24 サスセンター	03-6803-6222
株式会社ライフ計画事務所	03-5626-4741	◇ 金子隆行	136-0071	江東区亀戸 6-58-12	03-5626-4740
株式会社LAT環境クリエイティブ	082-273-2605	青木成夫	733-0821	広島市西区庚午北 2-1-4	082-271-2230
株式会社ランズ計画研究所	045-322-0581	□ 川島 保	220-0004	横浜西区北幸 2-10-36	045-322-0719
株式会社ランドプランニング	047-710-6120	萩野一彦	271-0092	松戸市松戸 1228-1 5F	047-710-6220
株式会社リアライズ造園設計事務所	06-6941-1151	田中幸一	540-0026	大阪市中央区本町 1-1-6-401	06-6941-1154
株式会社緑景	06-6763-7167	瀬川勝之	542-0064	大阪市中央区上汐 1-4-6	06-6765-5599

会員名	電話番号	協会代表者	〒	所在地	FAX番号
アゴラ造園株	03-3997-2108	荻野淳司	179-0075	練馬区高松 6-2-18	03-3997-2252
株石勝エクステリア	03-3709-5591	川崎鉄平	158-0094	世田谷区玉川 2-2-1	03-3709-5857
石黒体育施設株	052-757-4030	石黒和重	464-0848	名古屋市千種区春岡 2-27-18	052-763-8110
株ウォーターデザイン	03-3431-8070	山本 誠	105-0004	港区新橋 6-9-2 新橋第一ビル	03-3431-8116
内田工業株	052-352-1811	内田裕郎	454-0825	名古屋市中川区好本町 3-67	052-351-1326
H.O.C 株	0956-48-8101	鏡流馬清規	858-0907	佐世保市棚方町 221-2	0956-48-8111
株岡部	0764-41-4651	石永裕明	930-0026	富山市八人町 6-2	0764-31-6340
快工房株	048-291-7721	時岡邦男	333-0816	川口市差間 2-14-5	048-291-7725
小岩金網株	03-5828-8828	一戸典夫	111-0035	台東区西浅草 3-20-14 JNT ビル	03-5828-7693
株コトブキ	03-5280-5400	大川泰志	105-0013	港区浜松町 1-14-5 D.I. センター	03-5280-5768
株コンパスサービス	03-5920-7031	天木信彦	174-0064	東京都板橋区中台 2-15-8-104	03-5920-7032
株ザイエンス	03-3284-0501	杉本吉正	101-0044	千代田区鍛冶町 1-9-4 KYY ビル	03-3284-0504
株サカエ	0422-47-5981	栗田耕司	181-0004	三鷹市新川 4-7-19	0422-49-2122
株サトミ産業	0258-87-5500	佐藤 勉	940-0871	長岡市北陽 2-14-23	0258-87-5501
株三英 景観事業部	04-7153-1511	鈴木 智	270-0119	流山市おおたかの森北 1-8-6	04-7153-3627
信建工業株	054-276-2151	阿部和茂	421-1212	静岡市葵区千代 1-18-29	054-276-2154
スイコー株	06-6412-5855	小林 弘	660-0857	尼崎市西向島町 86 番地	06-6414-2284
西武造園株	03-4531-3600	本郷壮一	171-0051	豊島区長崎 5-1-34 東長崎西武ビル	03-4531-3610
太陽工業株 空間デザインカンパニー	03-3714-3461	鈴木久文	153-0043	目黒区東山 3-16-19	03-3791-7731
大和リース株	06-6942-8011	野田夏夫	540-0011	大阪市中央区農人橋 2-1-36	06-6942-8051
タカオ株	0849-55-1275	高尾典秀	720-0004	福山市御幸町中津原 1787-1	0849-55-2481
株中京スポーツ施設	0561-53-1111	大内田 博	488-0022	尾張旭市狩宿新町 2-27	0561-53-1000
テック大洋工業株	03-5703-1441	小俣智裕	144-0052	大田区蒲田 4-22-8	03-5703-1444
東亜道路工業株	03-3405-1813	梅田剛士	106-0032	港区六本木 7-3-7	03-3405-4210
株ドゥサイエンス	03-5561-9751	香取良一	106-0032	港区六本木 4-1-16 六本木ハイソ 511 号	03-5561-9726
トーヨーマテラン株	0568-88-7080	池上英雄	480-0303	春日井市明知町 1512	0568-88-3370
株中村製作所	047-330-1111	櫻田正明	271-0093	松戸市小山 510	047-330-1119
日都産業株	03-3334-2216	西尾幸三	168-0081	杉並区宮前 5-19-1	03-3334-6211
日本乾溜工業株	092-632-1050	下川 徹	812-0054	福岡市東区馬出 1-11-11	092-632-1082
日本体育施設株	03-5337-2616	奥 裕之	164-0003	中野区東中野 3-20-10 ケイエム中野ビル	03-5337-2610
長谷川体育施設株	03-3422-5331	中田慎一	154-0004	世田谷区太子堂 1-4-21	03-3412-8415
花豊造園株	075-341-2246	勝山禎彦	600-8361	京都市下京区大宮通五条下る二丁目堀之上町 518 番地	075-361-0961
日日石材株	03-5637-9211	村越文幸	131-0033	墨田区向島 3-39-14	03-5637-9213
株日比谷アメニス	03-3453-2402	奥本 寛	108-0073	港区三田 4-7-27	03-3453-2417
株富士植木	03-3265-6731	成家 岳	102-0074	千代田区九段南 4-1-9	03-3265-3031
前田工織株 東京本社	03-6402-3944	近藤宏之	105-0011	港区芝公園 2-4-1 芝パークビル A 館	03-6402-3945
株丸山製作所	03-3637-4340	丸山智正	136-0071	江東区亀戸 7-5-1	03-3683-7553
株モクラボ	0790-66-3210	関根純一	671-2411	姫路市安富町三森 421-3	0790-66-3810
株ユニソン	052-238-1187	荒川直樹	473-0925	豊田市駒場町藤池 17 番地 1	052-238-1178

編集後記

CLAjournal をご覧いただき、ありがとうございます。今号は、例年の CLA 賞受賞作品の紹介と合わせて、「地域づくりの核となるランドスケープ」と題した企画特集を取りまとめました。

CLA 賞受賞作は、最優秀賞となった東日本大震災の追悼・記念施設や、長野と広島で開催された都市緑化フェア、林間の敷地を活用した幼稚園、ふるさと農園の活性化マネジメント、身近な公園の改修、など多様な内容となりました。

「地域づくりの核となるランドスケープ」特集は、まちづくりや地域活性化の核となる公園の整備事例です。公園が地域の重要なインフラとして、その機能発揮がますます求められている事例を紹介しました。ランドスケープの多様な可能性に期待大です。

CLAjournal

no.181

発行日◎ 2020年10月22日

発行人◎ 金清典広

編集◎(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
広報委員会

発行所◎(一社)ランドスケープコンサルタンツ協会
〒103-0004 東京都中央区東日本橋3-3-7
近江会館ビル
TEL 03-3362-8266 FAX 03-3662-8268
http://www.cla.jp